

R3-17

地域の関係機関と連携した防災教育及び避難訓練の取組

- 管 内 オホーツク管内
- 分 類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（防災教育）
- 教育課程 教科（生活科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校 種 小学校（低）小学校（中）小学校（高）中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 防災に関する興味・関心を高められるような体験的活動
- 2 関係機関と連携した、防災について専門的な見地からの子どもたちへの指導
- 3 地域住民との合同避難訓練の実施

取組の実際

ねらい

- 防災について地域の方と関わりながら、体験的に学ぶことで防災に対する理解と関心を高める。
- 役場・地域住民と協働することにより、自助・共助の考え方の素地を身に付ける。

内 容

1 防災学習の実施

< 1・2年生 >

- ①自分の地域にどんな災害があるかについて役場防災課職員の講話を聞く。
- ②防災カルタを行い、災害について考えるきっかけにする。

< 3・4年生 >

- ①災害時の避難場所や避難方法について役場防災課職員の講話を聞く。
- ②斜里町の避難マップづくりを通して、災害の時にはどこに避難するかを知る。

< 5・6年生 >

- ①避難所の運営について、役場防災課職員の講話を聞く。
- ②段ボールベッドづくりやアルファ米の調理、試食などを通して、避難所の運営について学ぶ。



【段ボールベッドづくりの様子】

2 避難訓練の実施

- ①地震や津波に備えた避難訓練を町内会と合同で行う。
- ②集団での避難について消防署職員から講話を聞く。
- ③災害時の避難の仕方について振り返りを行う。



【避難訓練の様子】



【講話を聞く児童の様子】

成果と課題

- 防災の学習に取り組んだ後で地域と合同の避難訓練に取り組んだため、児童の防災の意識が高まり真剣に避難訓練に取り組むことができた。
- 学年単位で行った体験活動と振り返りにより、様々な災害について理解し、災害時の避難について具体的にイメージさせることができた。
- 災害についての知識を深め、災害時に住民と協力し合う意識をもたせる必要がある。
- 災害が実際に起きた場合、感染症予防を行いながら、地域住民への対応等をどうしていくか検討する必要がある。